

みずみどり

1998 1. 15 第4号

発行：いたばし水と緑の会 事務局
〒173 板橋区板橋2-66-1 TEL03-3579-2598
板橋区環境保全課内 FAX03-3579-2589

新年！ エコアップ スタート

いたばし水と緑の会ができて、8カ月。はじめてのお正月をみなさまはどのように迎えられたでしょうか。新しく入会された方も含め、今年は活動も新しい展開が期待できそうです。

自然は、たくましいところと、デリケートなところをあわせもっています。一人ひとりやっていたいことがあると思いますが、みんなの雑木林や荒川であることを踏まえ、それぞれの思いを大切に、お互いに連携をとりあって、楽しくやっていきましょう。

そして、このいたばし水と緑の会がより多くの方の参加をもって、充実した活動になるよう、みなさんと盛り上げていきましょう。

まずは、スタートとして、新年会を兼ねて、下記により赤塚公園エコアップを計画しました。都会の雑木林の望ましいあり方を考えて、講師の先生と一緒に観察会を行い、それをもとに、私たちに何ができるかを話し合い、活動メニューを考えます。

赤塚公園雑木林のエコアップ

日時：1月31日（土）

①午前10時～12時 城址公園エコアップのための観察会

②午後1時30分～4時 話し合い「赤塚公園でどんなことができるか」

講師：緑生研究所 井本 郁子氏

集合場所：①は区立美術館前（成増駅より9時30分発の送迎バス有り）

②は赤塚5丁目集会所（赤塚大仏のそばの赤塚老人いこいの家併設）

昼食：お弁当を持参の方は集会所でもたべられます。近くに大仏そばもあり。

引き続き同集会所で新年会をやりませう

飲み物・食べ物は持ち寄りです。

「おでん」をつくりませう。おでん材料の持ち込みも歓迎。＜連絡先：坂本（3579）2598＞

赤塚公園のエコアップ検討会の報告

第3号でお知らせしたとおり、水と緑の会は、ニリンソウの保全活動以外のテーマで独自に活動を進めていくことになりました。とはいうものの「都市の雑木林の管理」なんて、聞いた話や、本で読んだことはあっても、私たちのほとんどが実際の経験はゼロ。赤塚崖地の自然を守るために、私たちはなにをしたらよいか、じっくり観察する、勉強する、そして、話し合う必要があります。

とっかかりとして、11月30日、城址公園をフィールドに「赤塚公園エコアップ」と題したワークショップを行いました。エコアップは、自然度を高める、つまり生き物のすめる環境づくりです。当日の参加者は19人でした。午前中は公園と周辺の観察と写真記録、午後は、できあがった写真や記憶を頼りに、「こんなことがしたい」、「こんな管理が必要だ」などをめいめいがカードに書いて、地図に張り付け、それをもとに、話し合いました。議論白熱で大いに盛り上がりましたが、結論は出ず。そういう話ならもう一度現場を見なおさなければ、という声も。

森林生態学を専攻された島井さん、虫の博士の釣巻さん、かつて里山や水路の管理を指導した経験をもつ矢田さん、市民参加のまちづくりに意欲を燃やす人、子供たちが生き物とふれあえる公園づくりを目指す人、自然をとりもどすために何かしたい人など、それぞれが提案や活動メニューを出し合いました。

おもな調査地点と話し合ったことは、次のとお

りです。時間をかけてもっと議論を深め、方針が確定したら、私たちができることは、公園管理者の了解を得て進めたいと思います。

○生き物のための水辺

- ・浄蓮寺下からのわずかな湧水を利用して、小さな水辺ができそう
- ・美術館裏の湧水水路をきれいにして、復活させたい。
- ・美術館裏の湧水水路は水量もあるので、ピオトープができそう。オニヤンマやハグロトンボを復活させたい。

○城址公園の雑木林

- ・自然にまかせると、照葉樹林（カシなどの常緑樹）になる。どんな林がいいのが、どの場所を明るい落葉樹の林にするか、照葉樹林になるにまかせると、十分検討する必要がある。
- ・斜面林は保存する。手を入れない方がよい。
- ・広場に散らかった落ち葉をためて腐葉土をつくり、表土が流出した斜面を保護する（落ち葉を森に返す）



- ・どこかにドングリを植えたい
- ・カブトムシの幼虫がくる堆肥置き場がほしい
- ・ニリンソウの手入れで出るごみ（キチジョウソウなど）の利用法

○不動の滝上の公園予定地

- ・昆虫の生息空間として、野草の茂るままにしてほしい
- ・子供たちと一緒にドングリの苗を育てる場所に
- ・滝の水源涵養のため低木を植えるだけにする

○その他

- ・散歩コースマップをみんなでつくる

- ・城址の上で写真による定点観測をする。毎月1回同じ場所から同じ方向で写真をとる。
- ・落ち葉や木の実の観察会をする
- ・木の名札づくり
- ・郷土資料館裏の山裾は荒れておりゴミもめだつ。きれいにしたい。

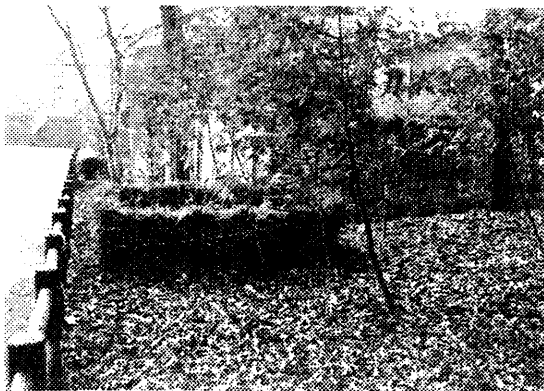
その他、公園内のコンクリートをはがして土にするなど過激？な意見もあり、全部を紹介できなくて残念。もっと勉強をして、議論を重ね、意見をまとめるのはもう少し先になりそうです（1月31日第2回ワークショップに続く）。

城址公園雑木林作業の首尾はいかに

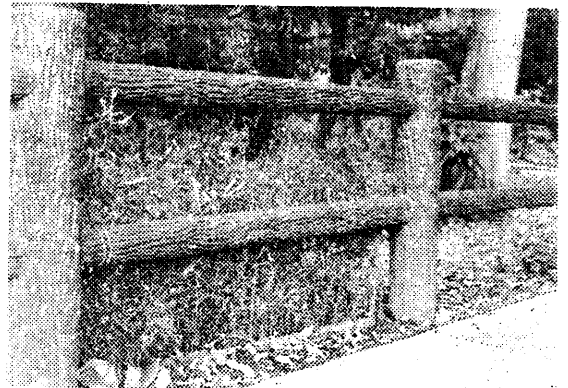
11月30日

落ち葉が降り積もる季節。事前に公園管理事務所に了解を得て、下草刈りのほかに、竹を少し切って、堆肥置き場をつくりました。落ち葉は乾いた状態では飛散し、簡単には土にならないとか。

できた堆肥置き場は、カブトムシのゆりかごになることはもちろん、人間も安眠できそうな立派なもので、最後はしっかり水をかけて出来上がり。



その場にあるもので作る矢田さんの技術に感服。ほかに落ち葉が飛散するのを防ぐ柵の試作品（写真）も披露されました。



釣巻さんはこの柵をエノキの根元につくって、エノキの枯れ葉にくっついて冬を越すゴマダラチヨウのサナギを保全したいとボソリ。そういえば去年釣巻さんに教わってサナギを探したっけ。

定例会のお知らせ

赤塚の森の活動も、荒川の活動も、世話人会がほとんど開けなかったことを反省して、毎月一緒に定例会を開くことになりました。全体的な方向をみんなで決めたり、会報の内容（書く人）、各活動の打ち合わせ等を行います。時間のある人はのぞきにきてください。

日時：第1木曜日午後6時30分～（2月のみ会場の都合で4日（水）に変更）

場所：産文ホールB1 レストラン サンイチ（三田線板橋区役所または東上線大山駅下車6分位）

赤塚の森ボランティアの活動予定

○ 落ち葉の片づけと堆肥づくり 連絡先：矢田（3973）0998

1月24日（土） 午前10時～ 城址公園下の広場（郷土資料館奥）集合

○ 美術館裏の水路の下草刈りと清掃 連絡先：矢田（3973）0998

美術館となりの池田園の裏が水路の入口です。

美術館の裏のフェンスの向こうに湧水の流れがあるのをご存じですか。湧き出し口を見ると湧水量はけっこうあり、ピオトープとして期待がもてるどころです。区でも水路の活用を検討しているそうです。この水路は、今は水が途中で消えており、だいぶ荒れています。水路を復活させるために、水路に生い茂った下草刈りや水路の清掃を行います。いつでも、できるときにお手伝いください。湧水も見てね。

2月と3月の予定 毎週月曜日・水曜日の午後1時30分からと土曜日の10時から。

会員のコーナー

小屋 弘美のちょっと一言

昨年2月にニリンソウを保存する会の香取さんの指導のもと、赤塚城址の竹林の手入れをしました。そのとき、除去した下草の中にあつた椿をゴミにするのはかわいそうなので、持ち帰って父の家の庭に植えた1本が、根付いてくれまして、花が満開に咲き、私たちの目を楽しませてくれています。



市民参加による

笹目橋緑地の自然回復案

1. 自然回復案づくりの経過

- 96年 6月 建設省荒川下流工事事務所より市民参加による自然回復の検討要請を受ける(いたばし野鳥クラブ、板橋自然と遊びの会)
- 96年 9月 「(仮)自然地保全連絡会」発足(板橋区環境保全課、区の花・ニリンソウを保存する会、いたばし自然観察会、いたばし野鳥クラブ、板橋自然と遊びの会)
- 96年 9月 板橋環境会議の分科会で笹目橋緑地の自然回復の検討
- 96年10月 笹目橋緑地で荒川クリーンエイド
- 96年11月 笹目橋緑地で現地見学会
- 96年12月～ 1月「(仮)自然地保全連絡会」のこれからを考える会において、活動の目的や組織のあり方などについて検討
- 97年 4月 「いたばし水と緑の会」および、「いたばし荒川自然回復団」のプロジェクト発足(以下は「いたばし荒川自然回復団」の活動を示す)
- 97年 5月 中土手自然観察会(中土手の市民による自然回復を見学)
- 97年 6月 自然観察会(笹目橋緑地、以下場所名なきは同じ)
- 97年 6月 看板についての検討会(区役所にて)
- 97年 8月 河原キャンプ(入江の清掃、自然回復の話合い、自然観察)
- 97年 9月 実験池の穴掘り
- 97年 9月 環境会議において活動報告、講演、自然回復案づくりを行う
- 97年10月 荒川クリーンエイド(清掃、水質調査、自然観察、自然回復案の検討)
- 97年11月 自然回復ボランティア活動講座(主催・板橋区環境保全課)にて笹目橋緑地の自然回復について意見交換を行う
- 97年11月 実験池の調査と最終計画案の作成
- 97年12月 最終計画案について意見交換

96年 6月から約 1年半に渡って、観察、見学、検討など様々な活動をつづけてきました。延べ約 250人の人達が自然回復のための活動に関わってきたこととなります。最終計画案は97環境会議でつくられた 4つのプランをベースに約20人の人が意見を出してまとめました。

今後は 4月までに(財)埼玉県生態系保護協会の協力のもと建設省荒川下流工事事務所によって基本設計がまとめられます。

来年度は建設省と市民参加による実験工事、板橋区及び戸田市との調整などを進め、実施設計が行われる予定です。本工事は99年度となる見込みです。

2. 最終計画案の作成における意見

①. 97板橋環境会議で作成した4つのプランを可能かどうかの視点から議論する（主に建設省の方に意見を聞いた）

- ・ 笹目橋脇のテトラポットのある付近から、水路を引く、ワンドにするなどは橋脚および護岸の保全上考えるべきでない。
- ・ こわれている護岸付近をセットバックして改修する案は建設省がすすめている護岸法線の見直しとの整合性の中で検討したい。
- ・ 田んぼ、畑などは今の段階で許可できるものではない。
- ・ 川の水のポンプアップは汽水域でもあり、メンテナンス等かんがえると難しい。
- ・ 神社は宗教上の施設であり、ここでは出来ない。
- ・ 井戸は河川敷では例がないように思うが、検討する。しかしその必要性は何か。
→それは水の確保と、淡水の流れである。ホタルなどの生息を配慮すると欠かせないものである。

②. 次にその内容が適性であるかどうかの議論を行う

- ・ 川から水を引き込むプランは下流の生態園でおこなっており、ここでは淡水による湿地を主としたほうがより種の多様性は増すのではないか。
- ・ レンゲ畑は田んぼが成立しなければ、つくる意味がない。
- ・ ミツバチは一年中花がたくさん咲いてなければ、蜜がとれない（ミツバチの箱）
- ・ 川の水は満潮でも水があまり中まで来ていないようなので、水路とその周辺を削るのはあまり意味がないのではないか。現況の水路とその周辺（クロベンケイガニのたくさんいる辺り）は自然として悪くないのではないか。
- ・ 池を掘っても水源が無ければ、水はたまらないのではないか。
→この周辺の水を水路によって集めることはできる。中土手でも掘っただけの池にいつもではないが、水はたまっている。ベントナイトなどでより水がたまるようにできると思う。又下流の生態園で、あれだけ水がたまっていることを考えると、湧き水などの可能性もある、ここでも1m以上ほれば水は湧くのではないか。

③. その他の意見

- ・ 今ある自然をこわすべきでない。（カニの生息する水路、キジのいるオギ原など）
- ・ 生き物のための空間を確保してあげることが大前提だと思う。
- ・ 水の溜まりや流れをつくることが一番大事である。
- ・ 市民による工事や手入れをしていくために、手を洗う所、トイレ、作業道具置き場などが必要である。
- ・ キャンプができるような場所もつくりたい。
- ・ 野鳥、昆虫類、人のためになるべく多くの河川敷特有の樹木を増やしたい。

3. 意見を取りまとめたテーマ設定と基本的方針

①. 生き物のための空間に配慮した自然とする

- ・人が立ち入らない場所を多くつくる
- ・今、生き物が利用している場所はできるだけ保全する
- ・河川敷特有の動植物の生息のために水辺、湿地を多くつくる
- ・生き物が利用する水辺特有の樹木をなるべく多く植栽する

②. 人が自然を楽しみ、ふれあうための場所をつくる

- ・眺めたり、身を置いて楽しむのにふさわしい場所をつくる
- ・子どもたちなどがふれあいやすい水辺、草原をつくる

③. 市民が自然を守り、親しむとともに多様な自然を保全・育成するために、市民が維持管理に参加していけるよう配慮する

- ・市民の維持管理に配慮した施設整備を行う

4. テーマと基本的方針、様々な検討をした上で次のような内容とする

①. キジが生息している草地、カニの多い水路と周辺のヤブ、水際のヤブ、河川敷特有の植生の残る水路周辺の草地などを保全する

②. 生態園の本流を取り入れた汽水域のワンドとはちがう、淡水の大きな池をつくる

- ・淡水池の水源は天水と水路からの流入水、そして井戸からの水とする
- ・水路からの流入を増やすため、上流側水路の整備を行う
- ・湧水を期待して現況より 1.2m程度深く掘った場所をつくる、渇水時に水生動物の逃げ場とする
- ・運動場整備のためか、浅い部分は排水性がよくなっているのでベントナイトなどにより防水性を高める
- ・周囲は安全と水鳥等の保護のため、浅くし、水生植物を育成する
- ・中央に中の島を設け、人が全く立ち入らない部分をつくる

③. 池を掘った土の置き場所とした場所は水辺とはちがう植生の草原とし、多様なバッタや蝶類の生息できる場所とする

- ・管理によって種類の異なる草地をつくりだす

④. 井戸をもうける

- ・安定した水量を確保するとともに、水質、水温の安定した場所をつくり、ホタルの成育が可能な場所をつくる

- ⑤. キャンプが可能な場所とする
 - ・近場にトイレ、炊事場、枯れ枝置き場（木や刈ったアシなどを置く）、ファイアースーカルなどを整備する
 - ・草丈の低い場所を管理によってつくる

- ⑥. 市民による維持管理ができるような施設をつくる
 - ・手や足を洗う場所、トイレ、物置、ファイアースーカル（刈り草などを燃やす）をつくる

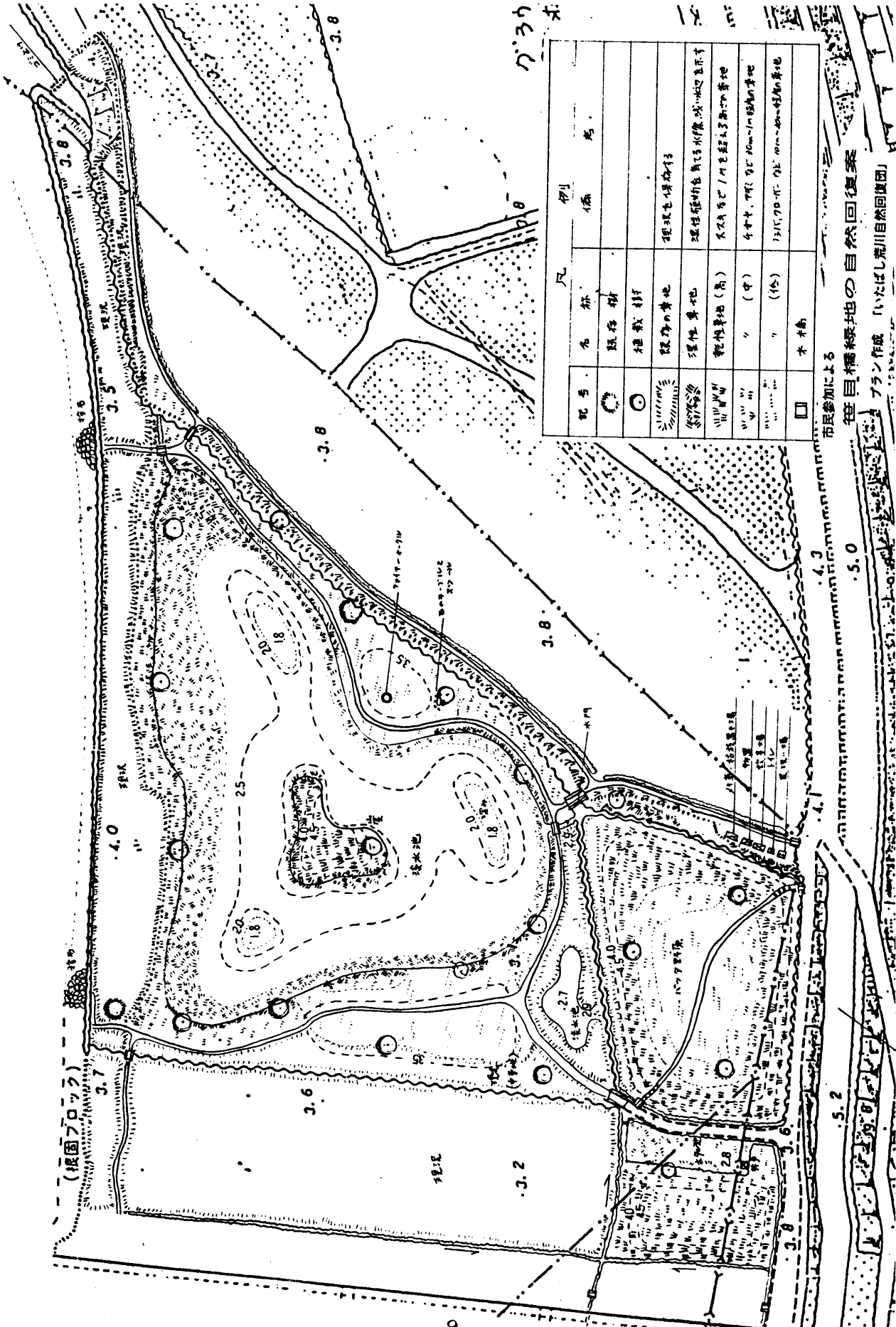
- ⑦. 干潟の改善とごみ堆積の防止
 - ・護岸法線の見直しに伴い、護岸の一部をセットバックする
 - ・水路の出口付近の傾斜を緩め干潟の美観を改善するとともに、干潟への視線、立入り場所を確保する
 - ・ごみの堆積が予想以上に早いため、ごみよけを設けるとともに、クリーンアップしやすくするために、上記傾斜を緩め、立ち入れるようにする
 - ・干潟の自然を楽しめるよう、干潟に降りられる場所を入江以外にもつくる

- ⑧. 水辺特有の樹木をなるべく多く植栽する
 - ・蝶類が食草とするハンノキ、エノキ、ヤナギ類、オシドリなどが食べるドングリ（クヌギ等）、蜜源植物で、景観としても楽しめるネムノキなどとする
 - ・樹木は人が木陰としても利用できるよう配置する

- ⑨. 小さな池をつくる
 - ・大きな池の水質が悪化した時や浚渫する時に、水生動物を避難させたりするために利用する
 - ・浅い池とし、こども達が安心して遊べるような池とする

- ⑩. 98年度は実験工事として、条件の違う池を数カ所掘って水の溜まりぐあいや水質などを調査し、詳細設計や工事・その後の管理についての調整をすすめることとする。

- ⑪. 99年度は全面的な工事を建設省、板橋区、市民の協力によって行う。



凡例		例	備	考
記号	名称			
○	残存樹			
○	植栽樹			
○	残存の草地			現況を保存する
○	埋性の草地			埋性植栽を有する(像域)周辺に近す
○	乾性草地(高)			不安定な土/河川を基とする高草地
○	〃 (中)			不安定な土/河川を基とする中草地
○	〃 (低)			不安定な土/河川を基とする低草地
□	木ナシ			

市民参加による
谷目権緑地の自然回復案
 プラン作成 (いたばし荒川自然回復団)

12月20日 「いたばし荒川自然回復団」の話し合いを行いました。主な内容は笹目橋緑地のプランについてですが、その内容は別項を参照して下さい。その他に今後の活動などについて話し、その内容は以下の通りです。

- ①. 笹目橋緑地の実験工事等において動植物の持込みをどう考えるか
 - ・基本的に導入しないが、苗木、ホタルなど一部の動植物の導入を検討する。
 - 導入するものは必ず荒川上流部からのものとする。
- ②. 生態園の調査、管理についてどのように関わるか
 - ・4月以降、野鳥、水生動物、植物などの観察を行う。
 - ・観察の結果から何か問題があれば、管理についての提言を行う。

③. 1月21日 **河川敷調査観察会** (野鳥クラブ主催)

今 (水) 午前9時半 三田線・西高島平駅改札口集合
後の 主に野鳥の生息調査観察会を野鳥クラブ主催で月1回行うこととなりま
活 した。回復団のメンバーも参加しましょう。
動 戸田橋を経て浮間公園まで歩きます。
予 参加費 200円 (持ち物: 暖かい服装・飲み物、双眼鏡、野帳等)

1月31日 **満潮時観察会**

(土) 午前8時 笹目橋緑地へ現地集合
満潮時の水路の状況などを観察します
その後コミミズクなどの野鳥を見に行きましょう。
(持ち物: 暖かい服装・飲み物、双眼鏡、野帳等)

新年会 (別項参照)

2月 4日 **世話人会**

(水) 午後 6:30~ 場所: 産文ホールB1 レストランサンイチ
満潮時の観察の結果や公園課との話し合いなどからプランや次年度の活動について、次回の会報づくりについて話しましょう。

2月 日 **基本設計図の検討会**

時間: 場所:
建設省と埼玉県生態系保護協会の検討した基本設計図について意見交換をします

3月 日 **河川敷調査観察会** (詳細未定)

④. 回復団の世話人が増えました。江戸、かがみ、笠原、金田、木村延明、木屋路、栗林、塚、坂本、佐藤修、須藤、釣巻、中澤、野村、番匠、矢田、渡瀬、新保、開沢、植田の20名の方となりました。楽しい企画、運営にご協力下さるものと思います。ヨロシク!

2月10日(水)
バニタインク見学会
会場: 船渡市場前の河川敷
時間: 午前10時から
参加費: 500円
(持ち物: 弁当、お水、
2つ折傘)
(トコトをせ(す))

荒川クリーンエイド'97の報告

(かがみりよう)

10月26日 笹目橋緑地で荒川クリーンエイドを行ないました。

前日の25日中学生ボランティアの研修受入れを行ない、横断幕を作りました。全くやる気を見せてくれない子が2人いましたが、フシ笛を教えてあげると、ずっとなつていました。



さて当日は天気にも恵まれ、約80人の参加者となりました。今年は稲荷台小学校の子ども達が先生、校長先生とともに参加してくれました。又NICE(国際ワークキャンプを主催している)の2人の若い女性も参加してくれました。

今年は約10人の粗大ゴミを片づけるグループもつかって橋の下を中心に集めました。新河岸川の今の土手の上にも粗大ゴミの山がありました。が、そちらまで今は回りませんでした。



きれいにした橋の下と、オギ原の方へは、「ゴミを捨てるので! みんなでゴミを拾いました」という主旨の立札を立てようと考えています。和光市側から車が入れないよう、車止めの改修も頼みました。板橋区側の車の回転スペースもゴミが捨てられないような工夫を提案しようと思っています。



このようなお願いや提案も、みんなでクリーンエイドを行なったからに頼めるものです。参加してくれた皆さんありがとう!!
それからゴミを処分してくれた板橋西清掃事業所の方へ、協力してくれた区役所、建設省の皆様ありがとうございました。

* 散乱ゴミは120袋、粗大ゴミは27車2台となりました。

《子どもたちの意見》

「思ったよりゴミが多い、かえりはへとへとになったけど、よほどいいことしたのだと思いました。でもたのしかった。」(袴田涼輔・小3)

「川に来た人がみんな自分のゴミを持ち帰れば川はきれいになると思う。」

「野球場の後ろに、ジュース缶が多くておどろいた。」(前俣親・小6)

散乱ゴミワースト5		粗大ゴミワースト5			
1	飲料缶	1,045	1	タイヤ	18
2	プラスチック・ビニール片	490	2	自転車	5
3	紙片	413	3	クーラー	5
4	食品菓子袋	320	4	家具	2
5	スノー・コンプレックスの袋	305	5	車のドア	2

* 水質は昨年より窒素量が増え悪化しています。